



第11回

中部地区路面電車サミット in 清水

第12回は福井開催だよー！



● 関連記事 2ページ

☆☆活動報告☆☆

- 1月 16日 月例会・理事会
- 24日 えちぜん鉄道活性化連携協議会
- 25日 地域公共交通セミナー福井
- 29日 福井市地域公共交通活性化協議会
- 2月 3日 NPOと企業の協働セミナー
- 4日～7日 NPOパネル展(市役所1Fロビー)
- 8日～13日 NPOパネル展(AOSSA 5F)

- 16日～17日 全国バスマップサミット(札幌大会)
- 20日 月例会・理事会

☆☆今後の予定☆☆

- 3月 1日(金) 地域公共交通コーディネーター会議(中部運輸局)
- 17日(日) 第3回福井・環境ミーティング
- 27日(水) 月例会・理事会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

駐車場からのまちづくり 副題：都市再生のために

編集：公益財団法人国際交通安全学会学芸出版社 3000円+税

多数の人が来街でき、かつ車に邪魔されずに歩き回れる市街地を形成するには、①歩行者動線と自動車動線の高さを変え、徹底的に立体化する。②公共交通を充実させて駐車場整備を抑制する。③公共交通の充実には限界のある地方都市では、一定の街区内の駐車場は抑制するが、周囲に駐車場を配置する。といった手法がある。

これらの施策を正当化する理論や実践例を書いたマニュアル本を、各自治体の担当者は欲しくて仕方がないと思う。この本はその目的には完全には合致しない。多数の著者が書いているので、駐車場の緑化、駐車場と建物をうまく配置した街区デザインなど話題は多岐にわたり、結果的に①～③の目的に使える知識が増える本である。結局自分のまちの駐車場のあり方は、地域住民と議論して自分で考えるということなのだろう。

東海市会員 美濃部 雄人 Minobe Yujin

中部地区路面電車サミット IN 清水に参加して

内田佳次

平成 25 年 1 月 19 日中部地区路面電車サミットは静岡・清水区で開催されました。主催は清水を中心に活動をしている市民団体「LRTで結ぶ会」です。中部地区サミットは、これまで中部地区の路面電車運行都市および鉄道の活性化を呼びかけている地域が主催をしていましたが、今回はLRT導入を目指している地域での開催です。LRT導入を検討している静岡市と熱く切望している市民団体が一般市民への盛り上げ施策として位置づけています。

ROBAからの参加は畑さん、美濃部（東海市）さん、松原さん（京都市）そして内田の 4 名です。19 日の前半はサミット会議（参加市民団体の活動や地域情勢報告）後半は静岡市が企画しましたシンポジウムです。また会議終了後（18:30～20:00）は懇親会で大いに盛り上がりました。



サミット会議の様子



宇都宮浄人さんの講演

「LRTで結ぶ会」は結成 7 年で年長者が多いですが、議員や会社経営者、地域の活動家などが参画する元気な会です。行政ともうまくやっているようでサミット会議と懇親会には静岡市副市長も参加されていました。

後半のシンポは関西大学経済学部教授 宇都宮浄人さんとヴァンソン藤井由実さんの講演そしてパネルディスカッションです。お二人の話は全国路面電車サミット大阪・堺でもありましたし、その内容は説得力があり分りやすい講演です。最後のパネルディスカッションでは、進行もよく講演の隙間をうまく埋め合やす内容でした。特にヴァンソンさんの「公共交通だけで移動できることがわかるとクルマから離れる」という言葉が印象に残りました。また、「このようなまちになると自分のまちに誇りが持てるようになる」とのことです。トラムが走るフランスの都市では多くの市民はそう思っているんでしょうね。

なお、次回の第 12 回中部地区路面電車サミットは福井市で開催されることが決定いたしました。



サミットの前にコミバスでちょいとまちめぐり

福井鉄道家久駅改修竣工式典

岸本 雅行

1月19日（土）、福井鉄道家久駅の改修竣工式典が新しくなった駅舎で行われました。旧駅舎は福武線が開通した大正13年に建てられ、89年間にわたり家久町民に親しまれてきました。新駅舎は約2000万円をかけて、旧駅舎の面影をできる限り残すような形で改修されました。改修といっても、ほぼ新築と同じような状態で、屋内自転車置き場や多機能型（障害者用）トイレも新たに設置されました。当初はオープニングの式典などを行う予定はなかったようですが、私が地元家久町の町内会役員（総務担当）をしている関係で、福井鉄道と越前市政策推進課に式典の開催を申し入れ、両者の全面的な協力により実施の運びとなりました。

式典当日は寒波の襲来であいにくの雪模様でしたが、奈良越前市長・東村福井県総合政策部長・竹内家久区長をはじめ多くの来賓・家久町民が出席し盛大に挙行されました。式典は村田福井鉄道社長の挨拶、来賓祝辞、テープカットと続き、最後に壮年団（家久町壮年同志会）のメンバーが太鼓の演奏を披露して新しい駅舎の完成を祝いました。式典・太鼓の演奏などは、テレビや新聞で大きく報道されました。

町内会の役員をしていていつも思うことですが、歩いて数分の公民館で行われる会議でさえ、ほとんどがクルマで出席するような状況で、公共交通にはあまり関心のない町民がほとんどです。以前は多かった家久駅の利用者也、年とともに減少しているようです。しかし、今回の式典には予想以上に多くの町民が参加し、電車を利用してみようという気持ちを僅かでも持っていただけたのではないかと考えています。また、式典案内の回覧板（家久町内約900戸に回覧）では、福井鉄道のご協力により4月運行予定の新型低床車両の写真を掲載していただきました。これを機会に、家久町民の公共交通への関心が高まることを期待しています。



改修された新駅舎（晴天の日に撮影）



雪の中、来賓によるテープカット

第9回えちぜん鉄道活性化連携協議会の報告

報告者：内田佳次

◆開催日時：平成25年1月24日 9:30~10:45

◆協議会委員

福井大学教授 川上洋司、ROBA 会長内田佳次、福井商工会議所会頭代理 宮崎常務理事、えちぜん鉄道社長 見奈美 徹、福井市長 東村新一代理、勝山市長 山岸正裕代理、あわら市長代理 橋本達也代理、坂井市長代理 坂本憲男代理、永平寺町長 松本文雄代理

◆専門委員

福井運輸支局長代理 安藤専門官、福井県総合政策部長 東村健治 河上課長

◆議事

■相互乗り入れについて

当協議会で協議するのではなく、これまでの決定事項や方針を報告し意見交換の場とする。

○6時~9時 福井鉄道が福大前西福井駅まで乗り入れ（上下4本）
乗入便は浅水⇄鷺塚針原間（1本は駅前経由ナシ）LRVで運行

○9時~15時 乗入便は浅水⇄鷺塚針原間（1本・時 駅前経由ナシ）

○15時~19時 乗入便は鷺塚針原⇄越前武生（2本・時 駅前経由）

○19時以降 現行ダイヤを基本に乗継ダイヤを検討

平成27年4月には相互乗入開始する予定

○事業費について（合計19.2億円＝市町の花担割合はこれから）

・福井鉄道 田原町駅の工事8.7億円 浅水駅1億円

・えち鉄 福大西福井、日華化学、八ツ島、新田塚、鷺塚針原駅を低床ホーム 3.3億円 低床車両の導入（2編成）定員150人~170人 長さ30M級、幅2.65M 6.2億円

別途、PTPSや電停改良工事の経費が必要

○費用対効果

鷺塚針原案の30年間累計 1.31

50年間累計 1.42

■定時制の確保について

○軌道内に停車した右折車が電車の進行を妨害

- ・右直分離信号導入
- ・運転マナーの徹底
- ・道路標示による注意喚起

- 新木田交差点での信号待ち
 - ・信号処理の改善
- 電停の改良
 - ・電停の拡幅および再配置
- PTPS（電車優先信号）設置
- 鉄道区間の定時性向上

◆内田の意見

- ・施策の実行が遅いのでスピードアップしてほしい
- ・福井鉄道のLRVは視覚的にアピール力は大きい。是非相互乗り入れに大いに活用していただきたい。
- ・鉄道区間の遅延は朝夕の乗降時間を要することが大きな要因だろう。IC化を早急に進めていただきたい。
- ・軌道区間の遅延は右折車両と運転手のマナーによる。道路標示や電停の再配置をしなければならない。運転マナーは免許更新時に軌道区間の走行ルールを再徹底していただきたい。また右折の制限をしないとイケない。

以上

過疎地に「小さな拠点」 福井の実態はいかに ROBA - MLより

- < A > 福井市交通戦略で議論された、ミニ交通・生活ハブの考えを国も進めることになったようです。
(生活施設集約化でモデル事業 = 過疎地に「小さな拠点」 国土交通省)
- < B > この「小さな拠点」はいいですね。モデル地域がたくさんできて、好事例として広がればいいのですがいつものことですが、スピードが遅いのが欠点です。施設が集まれば、個人の生活もその拠点に集まるでしょうが田舎では住居も移すのは至難でしょうね。
- < C > 2003年にROBAでやった全国都市再生モデル調査で、美山地区のまちづくりグループと交流したときに、美山のメンバーの一人が、JR美山駅前にコンビニをつくって、切符も扱って、横には観光案内所もできて、まさにこのモデルみたいだ、その後、さらに離れていたバス停もここに移動して、非常に高い評価をしていました。しかし、このコンビニはすでに閉店しているという噂を聞いて、それを維持していくのが大変だということを痛感しました。美山で唯一24時間灯がともっていて、美山の発展の希望の明かりだとも地元で評価されていたとも聞いていましたが、難しいですね。
- < C > 私が「生活圏の原単位」の探求のために旅行した「アイルランド」のミニ集落は、まさにこの「小さな拠点」が形成されており、教会、ガソリンスタンド、薬局、雑貨屋(今ならコンビニ)などが近くにありました。この「小さな拠点」は、その集落の人たちの生活と密着していて、私たちが泊まったホテル(といってもレストラン+B&B)は、Uターンしてきた人がこのレストラン&PUBをやっている、家族連れがカラオケしにきたり、老夫婦が食後に飲みに来たり、外部経済と内部経済がうまく回転して、この「小さな拠点」が維持されているのを感じました。日本ではまだまだ生活文化がこの域に達していないことを、美山の件では感じており、「拠点施設+生活文化」(ROBAでいうと、交通システム+まちづくり)が、うまく作用する必要がありますね。
- < D > 美山駅前のコンビニは、越美北線に一乗谷~美山間が代行バスだった頃に乗ったことがあるので覚えていましたが、なくなっていたとは初耳です。1日にわずか9往復の閑散路線では使いにくく、駅併設のコンビニも経営が成り立たなかったのでしょうか。
- < G > それは残念ですね。通常、交通量(人+クルマ)により出店の判断をしますが、ここの場合はオーナーの頑張りで出店ができたと聞いています。それだけに残念ですね。ロイヤリティ(名義料)が高かったものと推察します。地域の発展の一助ということで企業(この場合、コンビニ)が一部身を削る思いでロイヤリティを下げる努力をしてもいいのではないかと思います。でも残念ですね。でも、ここまで頑張ったオーナーさんには感謝の言葉をかけたいくらいです。
- < E > 美山駅前を通っている国道に新道(バイパス)ができ、ほとんどのクルマが新道に移転しました。駅前のコンビニも駅利用者が利用する割合はごくわずか、実際には道路を通行するドライバーが利用していたはずです。新道ができれば中山間地のコンビニは移転せざるを得ないのでしょうか。
- < F > 美山のコンビニの経営者は同じですね。バイパスが開通するので移転しました。移転した後に「移転します~」の張り紙も出ていましたよ。経営者は美山の青年です。地域の人が集まる場所を作り、まちづくりをやりたいと言っていました。跡地の利用も動いているような動いていないような。
- < A > この件に関し、福井新聞の記事がまだ残っていたのでご紹介。当初の目論見とかなり外れてきたかも。

<http://www.fukuishimbun.co.jp/localnews/raillway/20109.html>

(つづく)

地域公共交通セミナー参加報告

理事 玉井 秀和

国土交通省福井運輸支局主催の地域公共交通セミナーが1月25日、アオッサで開かれ本会からは、内田会長と私 2人参加しました。セミナーでは、予約に応じてバスや乗り合いタクシーを運行するデマンド型交通について、県内市町の先行事例の現状の報告があり、その後 福井大学の川上先生の司会で課題を学びました。報告された市町はあわら市 福井市 高浜町の3市町です。福井市は以前本会で調査を行っているので、コメントは控えます。

あわら市は利用が少なく 空気を運んでいるような状態だったコミュニティーバスを効率化して 本年度から導入した予約制の乗り合いタクシーの事例を紹介。利用が増えていてバス運行時の水準を上回ったと報告ありました。しかし内容は私の考えではかなり問題ありました。乗り合いタクシーに乗車するためには事前に登録が必要です。公共交通に乗るのに個人情報だして登録証をもらわないと乗れません。高浜町のデマンド交通も同様です。それに デマンド交通では 該当する地域以外からの利用は困難だと思います。あわら市の場合登録された本人以外の利用は不可で 地域外の人でも登録できますが制度自体が知られていませんし 実際は難しいです。また、運行時間も朝8時から夕方5時までですから 通勤利用もできません。運賃は一回乗車 600 円です。予約は乗車時間の一時間前までです。高浜町はオンデマンド交通というシステムで 住民以外も利用できますが 観光協会を経由する必要があります。運賃は 300 円です。高浜では 停留所以外でもどこでも乗降は可能です。本当の意味での足の確保です。デマンド型交通にする理由はわかりますが 課題も多く改善すべき点も多いです。特に観光客の足の確保にかんして まったく考えられていないと思います。予約制や登録制は、公共交通の趣旨からはずれます。

セミナーで現状を学びましたが 実際に利用してみないとわからないと思います。登録の方法を問い合わせしましたが そこまでしての利用には 首をかしげます。

また、私が本会の理事の立場で本セミナーに参加できたことを含めて考えると 地域住民以外の利用は無理です。はっきり公共性はありません。セミナーに参加して 考えさせられる内容でした。

.....

「過疎地に「小さな拠点」 福井の実態はいかに」つづき

< C > このように「小さな拠点」をつくっても、維持していくのが大変だということを感じさせられますね。これまで残せてこれなかったところに、また作るわけですから、それを継続していくことはさらに大変だということも分かったうえで、作ってほしいですね。

< A > 確かに商売上、クルマ対応中心に作戦を立てるのはやむを得ませんが、越美北線の運行頻度があまりに少なすぎ、地域住民の日常の足となっていないのが今回の大きな原因のように思います。新幹線開通後、並行在来とせず、JR経営のまま、マイナススパイラルを待つのか、3セクや上下分離にして、起死回生を図るのか判断のしどころですね。(えち鉄勝山線も中部縦貫道にて同じ宿命?)

ケントリーくんのあれこれ日記 Part 7

春の選抜高校野球大会に福井県から 24 年ぶりに 2 校出場（敦賀気比、春江工業）が決定しました。特に、春夏通じて初出場となった春江工業高校は、活動予算が乏しく恵まれない環境の中でも工夫して練習に取り組んでいる様子が、全国ニュースでも紹介されました。甲子園の舞台で福井県勢が活躍するのを期待したいものです。

なお、今回は私の故郷京都府からも 2 校出場するので、組み合わせ抽選の結果によっては、福井県と京都府の対戦も実現の可能性が大いにあります。ただ、春江工業高校（勤務先最寄り）と龍谷大平安高校（実家最寄り）が対戦することになったら、正直言ってどちらを応援するか複雑な心境です。組み合わせ抽選会が来月 15 日、開幕は 22 日ですが、今から楽しみにしています。



作／漆崎 耕次



JR 春江駅 券売機の横にお祝いのポスターが掲げられた

編集後記・・・編集委員より一言

内田（発行責任者）

「えち鉄と福鉄の相互乗入も具体化し、両事業者も低床車両の導入も進められることになり、福井の地域鉄道も約 10 年前の衝突事故から考えて、いよいよ第 2 ロケットに火が点けられた感じがします。」

林（変集長）

「漆崎・内田両氏とも、ロケットネタですね！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会 (ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>